

§ 長野県テニス協会：歩み §

〔設立〕

昭和30年（1955）10月22日

前年（1954）に発足した松本ローンテニス倶楽部が中心となり、上田・長野・飯田・塩尻・軽井沢のテニス愛好者により結成式を挙行し「長野県庭球協会」として発足する

昭和30年（1955）10月22日

「日本庭球協会」・「長野県体育協会」に加盟が承認される

昭和30年（1955）10月22日

「関東庭球協会」に加盟する

〔歩み〕

昭和30年（1955）10月15日・16日

「第1回長野県庭球選手権大会」（現在の長野県テニス選手権大会）を、松本市県営庭球場（現在の松本市浅間温泉庭球公園）にて開催する。以後毎年開催され、平成30年（2018）には、単・複・混合複の3大会が信州スカイパークテニスコート他で開催されている

昭和31年（1956）7月14日・15日

「第11回兵庫国体テニス競技」の、県予選大会を松本市県営庭球場にて開催する。

昭和36年（1961）4月1日

「長野県高等学校体育連盟庭球部」に、男子3校（松商学園・松本深志・上田）の他に初めて女子（松商学園）が加盟する。翌々年に男子（松本県ヶ丘）、女子（松本蟻ヶ崎）が加盟する

昭和37年（1962）11月17日・18日

長野県庭球協会が主催する以外の大会として初めてとなる、加盟団体が主管（上田庭球協会）する「第1回富士トーナメント」が松本県営庭球場にて開催される。以後も毎年開催され、昭和45年（1968）からは秋季上田テニス大会として開催されている。2018年現在、加盟団体が主管する大会は年間34大会を数えている

昭和42年（1967）8月1日～8日

「第57回全国高等学校庭球選手権大会」（インターハイ）が、松本市県営庭球場にて開催される

昭和46年（1971）7月24日～26日

「第25回全国都市対抗三競技会庭球競技大会」を、松本市県営庭球場にて開催する

昭和47年（1972）4月1日

日本体育協会・日本庭球協会による地域ブロック分けが発表され、長野県は新潟県とともに北陸地域と統合され北信越ブロックへの加入となる。これにより創設された「北信越庭球協会」へ加盟するのに伴い関東庭球協会より脱会する

昭和49年（1974）2月17日

「第1回県テニス室内選手権大会」が松本市営体育館にて開催される。以後、毎年開催され2018年には、第45回県室内テニス選手権大会として、単・複・混合複の種目ごとの3大会を松本市南部屋内運動場他にて開催している

昭和49年（1974）10月30日～11月7日

「第49回全日本テニス選手権大会」に、一般男子複と壮年男子複が長野県選手として初出場する

昭和50年（1975）4月1日

長野県庭球協会の規約が、日本庭球協会の規約に準じたものに改定され制定施行される

昭和50年（1975）12月1日

長野県庭球協会創立20周年を迎へ「長野県庭球二十年史」を発刊する

昭和51年（1976）11月15日～17日

「日本庭球協会公認テニス指導員制度」が発足し、県内から1級2名・2級4名が合格する。平成元年からは（公財）日本体育協会のスポーツ指導員制度に移管される

昭和52年（1977）9月13日～15日

「やまびこ国体」テニス競技のリハーサル大会として、第11回関東地区庭球大会を、新設なった松本市浅間温泉庭球公園にて開催する

昭和53年（1978）10月16日～19日

「第33回国民体育大会“やまびこ国体”テニス競技大会」が、松本市浅間温泉庭球公園にて、監督・選手328名、大会役員・競技役員255名、補助員226名の協力を得て盛大に開催される

昭和54年（1979）8月2日～5日

「第32回北信越テニス選手権大会」が、初めて松本市浅間温泉庭球公園にて開催される。

昭和55年（1980）3月31日

「長野県庭球協会ランキング」が制定され、前年度末現在として毎年発表される。平成9年（1996）にホームページに随時掲載されるようになるまで続けられる

昭和56年（1981）8月24日～25日

「第2回北信越国民体育大会テニス競技」が、松本市浅間温泉庭球公園にて開催される。前年より“ミニ国体”として4種目（成年男子・成年女子・少年男子・少年女子）の国体北信越ブロック予選を兼ねて開催されることとなる

昭和57年（1982）3月6日

同年の理事会において、県内で開催される大会の参加者より「協賛金」として単300円・複300円（ジュニア大会は免除）を徴収することが承認され、4月1日以降の大会から適用される

昭和57年（1982）3月7日

「日本庭球協会」の名称が「日本テニス協会」に変更されたのに伴い「長野県テニス協会」と改名する。これにより「北信越庭球協会」も「北信越テニス協会」に改名される

昭和57年（1982）10月15日・16日

「第1回オール信州エプソンカップテニストーナメント」（EPSONカップ'82）が、松本市の松塩グランドテニスコートにおいて115組の参加にて開催される。以後毎年開催され、6地区予選と本戦を行ってきたが、平成10年（1998）に第18回（1517組参加）をもって終了となる

昭和58年（1983）4月1日

これまで競技部が主管していた県内大会のうち、ジュニア大会への参加者増加にともない、ジュニア県予選大会・北信越予選大会の主管及び、県代表選手の派遣に対応するために「ジュニア部」を発足する

昭和59年（1984）4月1日

総務部・競技部・指導部・強化部・ジュニア部の名称を、（財）日本テニス協会の名称変更に合わせて「委員会」に改名する

昭和59年（1984）10月30日

セイコーエプソン(株)様よりパソコン（QC10-II）1台の贈呈を受ける

昭和59年（1984）11月6日

（財）日本テニス協会公認指導員を受験するための「県テニス協会公認準指導員」制度が始まる。平成元年に（財）日本体育協会の「スポーツ指導員」制度に移管されるのに伴いその役目を終了する

昭和61年（1986）5月18日

長野県テニス協会「創立30周年記念式典」が松本市において挙行され、「協会創立30周年記念誌」を発刊する。

昭和62年（1987）3月10日

（財）日本テニス協会よりレイティングシステムが導入され、「レイティング委員会」を設立して、特に一般初・中級者の普及大会として県内でも参画する。JTAのレイティング事業停止に伴い、平成16年（2004）3月31日をもって終了する

昭和63年（1988）4月1日

「テニス競技のしおり（現在テニスのしおり）」が発刊され、特に要項・申込書が統一されたものになる。以後、毎年（現在は3月下旬）発刊されている

昭和63年（1988）8月6日～8日

「第63回全日本テニス選手権大会」の男子・女子の「単」予選に各県代表選手の出場枠1名が認められ、第34回県選手権を兼ねて開催する。以後、全日本の要項が変更になる2008年まで毎年選出する

昭和63年（1988）10月15日・16日

「EPSONカップ'88」において県内のテニス大会としては初めてテレビ放映（SBC）が行われる。この年を含めて3年連続して放映される

平成元年（1989）3月1日

セイコーエプソン(株)様よりパソコン（286UX）の贈呈を受ける

平成元年（1989）3月8日

長野県テニス協会の「規約・規程」が大幅に見直され、その運用を明確にするため「加盟規程・学校テニス部加盟規程・会計規程・表彰規程・賛助会規程」を新たに設けて施行される

平成元年（1989）9月30日

長野県テニス協会の準指導員及び、（公財）日本テニス協会の1・2級公認指導員が、（公財）日本スポーツ協会のスポーツ指導員に移行されるのに伴い移行講習会が開催される。

平成3年（1991）3月10日

「選手選考委員会」（現在の選手選考部会）が、会長の委嘱した専門委員により構成され、県を代表する選手の選考を行うこととなる

平成6年（1994）4月1日

信州博覧会々場の「やまびこドーム」が室内テニスコート（砂入り人工芝8面）として整備され、特に冬期間の大会・合宿等に利用で出来るようになる

平成7年（1995）3月28日

前年の県体協ヒアリングにおいて、松商学園高校の全国大会での成績が認められて「重点強化校」の指定を受けることとなる。3年ごとに見直しをされているが2018年現在も継続して指定を受けている

平成7年（1995）4月1日

県テニス協会の規約に、「特別団体加盟規程」（県実業団テニス連盟と日本女子テニス連盟県支部が継続して加盟する）が制定されて施行される

平成7年（1995）11月19日

長野県テニス協会「創立40周年記念大会兼第1回地区対抗テニス大会」を開催する。以後毎年開催され平成26年（2014）の第20回大会をもって終了となる。

平成7年（1995）12月15日～28日

北信越テニス協会「ジュニア海外派遣強化合宿」に、引率コーチとして深草浩幸（上田テニス協会）が推薦されアメリカ：フロリダのハリ－・ホプマンテニスアカデミーに参加する。以後、大浦敏孝（諏訪市テニス協会）、小林正則（高体連）、庭山 裕（長野市テニス協会）、小林孝典（松本テニス協会）、齊藤政宏（松本テニス協会）が派遣されている

平成8年（1996）3月10日

インターネットに県テニス協会ホームページを開設する

平成8年（1996）5月4日

「（公財）日本テニス協会公認C級審判員資格取得講習会」を、長野県公園公社体育館（現スカイパーク体育館）にて延べ42名の受講者で2回開催（もう1回は7月21日）する。同取得講習会は、平成9年4月20日にも開催され19名が受験する

平成9年（1997）2月22日

ホームページに「長野県テニスランキング」が随時掲載されるようになり、より最新のランキングを活用して大会が開催されるようになる

平成9年（1997）10月5日～11日

「1997信州上田オープン」（公財）日本テニス協会の公認JOP「A」大会（賞金男子100万円・女子20万円）として、上田市古戦場公園テニスコートを主会場に開催される。以後毎年開催され、平成18年（2006）第10回大会をもって終了する

平成10年（1998）6月27日・28日

（公財）日本テニス協会公認「B扱レフェリー取得検定会」を、信州スカイパーク体育館で開催され全国より52名が受験する

平成10年（1998）11月15日

長野県テニス協会の「公認テニス指導員制度」（公認テニス指導員規程も同日施行）が制定される。以後も毎年検定会が実施されて普及指導委員会が担当している

平成11年（1999）4月1日

松本平広域公園内のスポーツ施設の大改修が行われ、名称も「信州スカイパークテニスコート」として砂入り人工芝8面に改修され、長野県テニス大会の主会場として活用されている

平成12年（2000）4月1日

「松本市南部屋内運動場」が砂入り人工芝4面の室内コートとして完成し、天候に左右されず大会・強化練習・講習会等に年間を通じて、信州スカイパークと併用して県協会事業の主会場として活用されている

平成12年（2000）9月22日～24日

「第34回全国ろうあ者体育大会テニス競技」が、長野市運動公園テニスコートにおいて開催される

平成13年（2001）3月4日

県テニス協会の特別加盟団体に「日本シニアテニス連盟長野県支部」が加盟する。これを契機に、ねんりんピック県予選等のシニア大会の主管・運営をゆだねる

平成13年（2001）3月4日

長野県テニス協会の学校テニス部に「長野県中学校テニス連盟」が加盟する。

平成13年（2001）7月21日・22日

「日本スポーツマスターズ2001」より、テニス競技（男子35S・45D・女子40S・D）が追加されるのに伴い県予選を行う。以後毎年開催して選手を派遣している

平成14年（2002）4月2日

「会員登録」の2003年運用開始に向けての登録受付を開始する

平成15年（2003）2月23日

インターネットによる情報伝達・広報活動を充実させるため独自ドメイン取得しサーバーを設立する

平成15年（2003）4月2日

県大会をはじめ長野県テニス協会が主催等する大会（ジュニア・レイティング・スポンサー大会は除く）の参加が「会員登録」をされた者のみの参加資格となり、申込みが団体一括から個人エントリーとなる。

平成15年（2003）5月13日～19日

「軽井沢国際女子オープン2003」（賞金\$10,000）が、軽井沢町風越公園テニスコートで開催され、国内外からの選手が出場している。2010年より賞金\$25,000にアップして、2018年も継続して開催されている

平成16年（2004）6月1日

長野県テニス協会創立50周年を記念して記念誌「50年の軌跡」を発刊する

平成17年（2005）4月1日

「会員登録規程」が制定され施行される

平成18年（2006）3月3日

それまでジュニア委員会が担当してきた「ジュニア強化練習」（年12回以上）を、ジュニア大会の日程増加に伴い、強化委員会へ事業変換してジュニア委員会は県ジュニア予選大会のみを担当する

平成18年（2006）4月1日

「長野県ジュニアテニスシード基準表」を制定して、ジュニア大会のシードを大会グレードのポイントで表し、画一化したものにして選手の公平化を図る

平成19年（2007）2月5日

北信越ジュニア大会が各県フランチャイズ制となり、長野県は2大会（小学生予選・選抜室内予選）を毎年開催することとなる

平成20年（2008）7月18日～24日

「第57回北信越ベテランテニス選手権大会」が、長野県フランチャイズ開催となり松本市浅間温泉庭球公園に650ドローの参加を得て開催される。以後も毎年開催されている

平成21年（2009）2月22日

「しおり管理委員会」を立ち上げてテニスのしおり発行に関する業務を行う。分業が確立したため2015年より特別会計扱いとして終了する

平成21年（2009）2月22日

「IT企画委員会」を立ち上げて、加盟団体との連携を密にして大会での運用を活発にする。2016年2月26日すべての団体が運用するに至り終了する

平成21年（2009）7月4日

長野県教育委員会等が主催する、第31回「スポーツ天国」にテニスが初参加する。信州スカイパークにおいて混合ダブルス大会を行い、平成26年（2014）からは、信州チャレンジスポーツDAYに変更となり、テニスP&Sを導入して初めてのテニス体験（2017年は158名）を開催している

平成22年（2010）4月1日

「JTAワンコイン制度」が施行され、JTT・J1・J2・ベテラン・地域・県の主催する大会（一部を除く）より、1種目100円を徴収してJTAへ納入することとなる。

平成22年（2010）4月18日

会長委嘱による「倫理部会」が発足し、選手の倫理問題について第1回部会が開催される

平成23年（2011）5月15日

「全国中体連加盟懇談会」が開催され、部活顧問・同好会代表者・団体戦参加監督等の20名により、中体連加盟に向けての問題点を討議する

平成23年（2011）11月28日

会長委嘱による「財務部会」が発足し、県テニス協会の事業・財務について短・中・長期にわたって検討する。平成30年（2018）3月をもって解散する

平成23年（2011）3月24日

前年度に就任した新JTA畔柳信雄会長の推進により、テニスPLAY&STAYが導入される。これにより保育園・幼稚園・小学校等へのテニス教室が随時行われることになり、普及指導委員会が担当する

平成24年（2012）4月26日

（公益財団法人）長野県体育協会となり、その祝賀会が長野市ホテル国際21にて開催される

平成24年（2012）10月15日～24日

「軽井沢国際ベテランテニストーナメント2012」が、JTAベテランDグレード大会として公認され、軽井沢会コート・風越公園コートにて開催される。以後、毎年開催されている

平成25年（2013）10月12日

「JPIN説明会」が、金沢市アパホテルにおいて開催される。2014年4月より一般大会に導入され、2015年以降にジュニア・ベテラン大会にも順次導入されることとなる

平成26年（2014）3月28日～

県内で開催されている「スポンサー主管のジュニア大会」（10大会）が、県公認大会となり開催されることとなる

平成27年（2015）2月22日

長野県テニス協会「創立60周年記念式典」が、松本市アルウィンにおいて理事会に先立ち挙行される。60周年名入れの「テニスボール1缶・スポーツタオル・フェイスタオル・記念DVD」が記念品として参列者に配布される

平成27年（2015）2月22日

テニスの普及に伴い、特にジュニア選手の参加が増加しており、小・中普及大会の日程延長を踏まえて、今まで普及指導委員会が管轄していた大会のみを主管することとして「普及大会委員会」を立ち上げる

平成28年（2016）2月20日・21日

「長野県チャレンジジュニアテニス大会」（小学3年生以下：グリーンボール）を、初めて松本市南部屋内運動場にて開催する。以後も毎年3月に継続して開催している

平成28年（2016）4月9日

「長野県チャレンジジュニア強化練習会」（小学4年生以下）が、4月～11月までの月1で8回、男女18名の選手が松本市扇子田屋内コートにて強化練習を行う。以後も毎年同様に行っている

平成28年（2016）12月18日

「全国中学校テニス連盟加盟懇談会」が、県内部活のある中学校顧問・団体戦代表者10名の参加を得て、松本市芳川公民館において開催される

平成29年（2017）10月16日

JTA懇談会が福井市で開催され、西村常務理事により来年から「ジュニアJPIN」が正式に導入される報告がなされる。これにより長野県も早急に対応する必要に迫られる

平成29年（2017）12月20日

2027年（第82回）長野国体が内定となり、長野市ホテル国際21において「長野国体設立総会」が挙行される

平成30年（2018）2月25日

「個人情報保護方針」と「ジュニア選手登録規程」制定され施行される

平成30年（2018）9月30日

平成8年（1996）に開設されて運用していた「県ホームページを大幅にリニューアル」する

平成30年（2018）10月1日

2019年4月よりJTAジュニアJPIN選手登録がスタートするのに伴い、長野県内の小・中・高校生を対象とした「ジュニア選手登録」が開始される

平成30年（2018）12月1日

2019年4月より県大会の参加を選手登録（ジュニア選手登録も併用して）制度に変更して運用するための「一般選手登録」が開始される。これにともない、平成14年（2002）より継続されていた会員登録は2019年3月31日をもって終了となる